

一緒に始めませんか、あなたの挑戦も応援します！ ～共に創る これからのふくろい～

発行日：令和6年1月15日
発行者：袋井市企画政策課

「創生会議」 首都圏部会

人口減少やデジタル化の進展などを踏まえた 今後の施策の方向性やキーワードは…



ロボットやデジタル技術をもっと身近に… パーソナライズなデータの収集と活用が今後のカギ

2023.12.20 @全国町村会館



本市人口は88,278人（R5.4.1時点）となり、コロナ禍での婚姻・出産控えなどにより、出生数が引き続き年間600人台（前年比▲39人）で推移したほか、死亡数が900人を超え、自然増減の減少が拡大。社会増減は、日本人が転入超過（R4▲14人→R5+53人）に転じ、外国人の人口も643人の増加となり、人口ビジョンで設定した目標人口を上回る水準を維持している。

また、直近の人口動態調査では、本市は外国人市民の入国などの社会増により、県内23市で唯一前年よりも人口が増加している中、国立社会保障・人口問題研究所が令和5年4月に公表した将来推計において、2070年に我が国の総人口に占める外国人の割合が約10%になることが示された。

こうした状況を踏まえると、今後、**外国人との共生社会の実現が増々重要となってくることから、近隣市町との連携はもとより、我が国が抱える社会的な課題として、国や県とも一緒になって受入環境を整えていくことが必要。**

主な意見（人口が減少していく中、活力あるまちづくりを進めていくためには）



ロボットとの共生社会に注目。そこからバイタルデータなどを取得し**官民で連携しながらサポートしていくまちづくり**

女性にやさしいまちづくりにより男性も集まってくるような戦略を…

企業進出には、優秀な人材を地域内で確保できるかが重要。教育の充実に注力すべき。

官民連携した障がい者の雇用促進など「障がい者に優しいまち」の展開を…



デジタル活用により、在宅で就農できるリモート農家の実現を目指す。こうした新たな動きを支援すべき。

袋井市は、新しいことに取り組む**土壌がある。**

先進的で元気なまちを支えていくのに、**新たなことに積極的にチャレンジできるリーダーの育成が大事。**

定住人口の確保も大事だが、**交流人口や関係人口づくりに着目すべき。**



- ①人口減少は避けられない。
- ②企業の収益率改善や賃上げは、限定的。地方や中小企業まで波及していない。
- ③利上げは必須だが、中小企業への影響は不可避。利上げによる中小企業への影響は相当大的なものとなる見込み。

外国人を含め、**暮らしということを軸とした豊かさが問われている。**

国立社会保障・人口問題研究所が公表した**人口推計は、リスクシナリオとして活用すべき。**

デジタルの話は、技術が目目されているが、**データの取扱いに注目すべき。**

今後の地域経営におけるパーソナライゼーションへの対応として、個人情報保護の観点を含めて**世帯や個人ベースのデータを地域内で長期間収集していくことが重要。**



出席者

1	株式会社朝日新聞社	監査役	足立直樹
2	株式会社大和総研	主席研究員	内野逸勢
3	株式会社三菱総合研究所	主席研究員	北井渉
4	学校法人国際文化アカデミー JTBトラベル&ホテルカレッジ	常務理事兼 総務部長	鈴木良照
5	株式会社JSOL	代表取締役 兼専務執行役員	名倉明彦
6	株式会社ココカラファイングループ	代表取締役社長	塚本厚志
7	イービストレード株式会社	代表取締役社長	寺井良治
8	株式会社大和コンピューター	代表取締役社長	中村憲司
9	楽天損害保険株式会社	常務執行役員	幡鎌大介

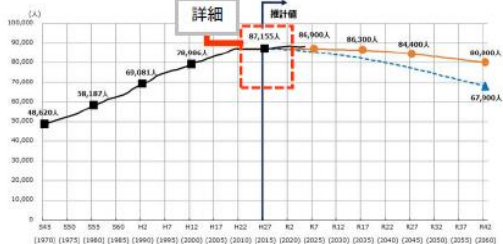
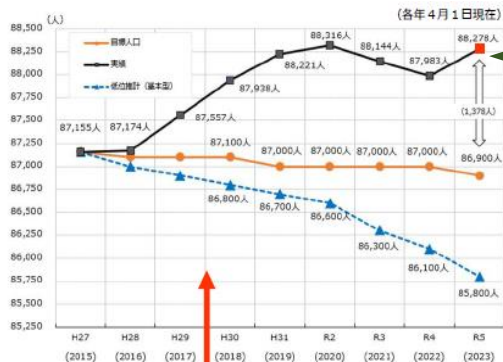
欠席者

1	株式会社コクーン	取締役 兼プロデューサー	松本朋丈
2	株式会社ポーラ・オルビス・ホールディングス	執行役員/グループ研究・知財事業センター担当兼 株式会社ポーラメディカル 代表取締役社長	末延則子

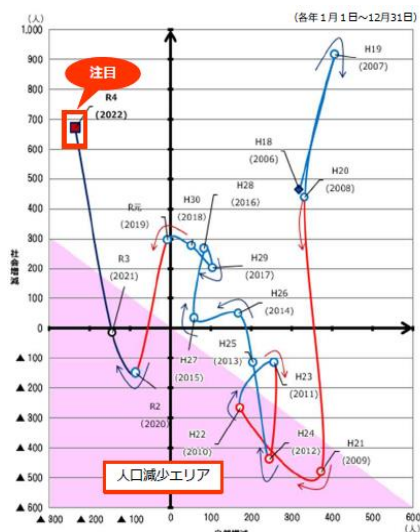
(令和5年12月末時点/順不同・敬称略)

やらまいかREPORT2023 ~抜粋~ 「3つの挑戦」の評価概要

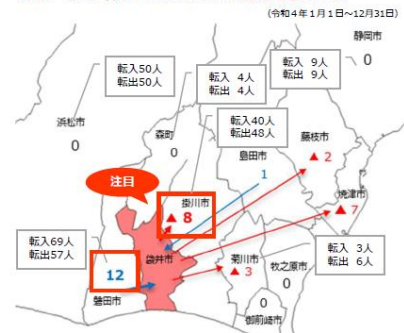
本市人口は88,278人 (R5.4.1時点) となり、コロナ禍での婚姻・出産控えなどにより年間出生数は600人台で推移した一方で、死亡数は900人を超え、自然増減の減少が拡大した。日本人が転入超過 (+53人) に転じたほか、外国人の人口が643人の増加となり。人口維持を下支えしている。



人口ビジョンで設定した目標人口に対しては、目標推計人口を上回る水準を維持している。



令和4年の子育て世帯の転出入は概ね均衡に好転



各取組の指標を踏まえ、令和4年度の取組の総括は「いい調子」と評価

挑戦1 「ふくろい人」人づくりへの挑戦

- 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるため、学習アプリを活用して、基礎学力の定着を目指す個別最適な学びへの効果や取組状況を学習カルテとして可視化することで、児童生徒の主体的な学びへの効果を検証をした。
- 市内県立高校と特別支援学校との連携協定に基づき、地域活性化に向けた高校生の発意をカタチにするため、それを応援したい地域の大人を繋げるプロジェクトを支援した。
- 首都圏で活躍する本市ゆかりの方々との交流を通じて、新たな分野や夢に向かって挑戦する人を応援する機会を創出した。

評価

いい調子です

(3.6点)

挑戦2 「しっかり稼ぐ」しごとづくりへの挑戦

- ふくろい産業イノベーションセンターにおいて、企業が持つビジネスアイデアや課題提案を通じた分野の垣根を超えた交流機会として「ふくろい産業イノベーションピッチ」を開催した。
- ふるさと納税返礼品を取扱う市内事業者らとともに首都圏のイベント「青山ファーマーズマーケット」に出店し、市場ニーズの把握や新たな市場の開拓に向けた交流機会の創出を図った。
- 市内の食や観光資源を紹介した動画を製作したほか、観光地などで撮影した写真や動画を募り、SNSを活用したコンテストを開催するなど、市民参加型のシティプロモーションの充実・強化を図った。

評価

いい調子です

(3.8点)

挑戦3 「支え合い」誰もが活躍するまちづくりへの挑戦

- 人生100年時代の地域経営のあり方に関する調査研究では、官民共創ワーキンググループにおいて、学校や花をテーマとした共創の実践をはじめ、各種イベントでの試行実証を実施した。
- 地域コミュニティ活動の情報発信を強化するため、コミュニティセンターのLINE公式アカウントや地域版ホームページを活用した情報発信を行った。
- 異文化への理解を深める講座や「やさしい日本語」研修会の開催、外国人市民のための防災ハンドブックの配布など、共生社会の推進に向けた取組を充実させた。

評価

もうひと踏ん張り

(3.4点)